

解雇問題を解決し
安全・安心のJALを

航空連ニュース

航空労組連絡会
大田区羽田 5-11-4 フェニックスビル
Tel 03-3742-3251
Fax 03-5737-7819
No.931 (32-3) 2018年10月19日

一時金引上げ 職場改善まったなし

18年末闘争は、回答指定日（10月31日、JALグループ11月5日）に向けた労使交渉が本格化しています。一時金交渉はJALグループ各労組やNAFCO労組、JAS新労組が中心です。とりわけ好業績が続くJALは、これまでの夏冬年2回の一時金に業績連動の期末を加えた年3回分割型を一方向的に押し付けてきたことで、冬の一時金は昨年実績を0.7ヵ月引き下げる「2.0ヵ月」が提示されています。大幅引き下げに職場からは、教育や住宅ローンの返済などで生活不安を訴える声が高まっています。JGS労組が行ったアンケートでは、夏の一時金が0.5ヵ月切り下げられたことで生活が「厳しくなった」「相変わらず厳しかった」あわせほぼ全員が厳しさを訴えており、このままでは夏を上回る悪影響が予想されます。日航ユニオン（JLU）では、「学費を納めるために、預金や保険を切り崩す」「最低でも昨年並みを維持してほしい」「単身が長いと家計も大変で赤字。一時金が少ないと困ります」と切実な声が寄せられています。削られる休憩時間、足りない部品など人員不足や職場環境の改善もまったなしです。好業績が続く中で生活の逆戻りは許されません。生活向上につながる年末一時金に引き上げましょう。

JAL 一時金	夏	冬	期末
2017年度	2.5ヵ月	2.7ヵ月	0.3ヵ月
2018年度	2ヵ月	2ヵ月	業績連動

2017年度は実績。18年度冬は会社提案

JLU いぼれる北の大地、暖房手当を！

冬の厳しい寒さの中での作業は身体にこたえます。JALでは屋外作業手当は破綻を契機に廃止されました。寒冷地でがんばる人たちに支給されていた寒冷地手当に続くもので、生活への影響も大きく、その分の負担は家計に重くのしかかります。JLUでは、年末要求の重点項目として寒冷地で勤務する社員の負担軽減につながる暖房手当を要求します。

整備現場では航空機の稼働を上げるために整備作業を夜間帯に行う傾向にあり、勤務も夜間偏重勤務になっています。夜間の作業はより神経をつかい疲労も増します。相次ぐエンジントラブルは、点検や交換作業、エンジン不足など整備士の作業負担を高めています。不足しているのはエンジンだけではありません。この夏JALでは、タイヤの在庫不足が顕著になりました。予備部品の確保は安全運航にとっても大切な条件です。JLUでは今年末要求で、予備部品不足を解消し適正な配備を求めます。特に使用頻度の高いショーテージ部品、エンジンの適正配備を求めます。



GHU グループ内格差・差別の是正

JAL・JAS 統合に伴い2006年に再編されたJGSグループ各社。地場水準や転勤を伴わないとして賃金や諸手当の引き下げが強行されましたが、今では当たり前のように出向転勤が行われています。引き下げられた賃金の引き上げはもとより、諸手当や制度面の格差是正が求められます。所属組合による差別も重大です。GHU（JGS労組、JGS大阪労組、JGS九州労組）の調査では、2017年度、2018年度の昇進はGHU合計2名に対し連合系労組は191名に上ります。GHUは「明らかな組合差別」。会社が強調するコンプライアンスの本気度が疑われます。

人員不足・効率化 削られる休憩時間

人員不足はますます深刻です。JGS労組の年末要求アンケートでは、職場の人員について「不足している」が94%に上りました。1時間の休憩が取れている人は37%（夏アンケート36%）にとどまり、1時間の休憩が取れていない人は6割に上りました。1時間を下回る際に増務扱い処理されている人は28%と多くは何の手当もされていません。健康面では、腰痛について聞いたところ「いつも痛む」「ときどき痛む」を合わせると73%に上りました。人員不足や効率化による労働強化は、働く者の健康を蝕んでいます。



以上